

練馬区の将来像を考える区民懇談会  
環境まちづくり分科会  
第6回 議事概要

日時：平成20年1月17日（木） 午後6時30分～8時30分  
場所：練馬区役所20階交流会場

**出席者【敬称略、50音順】**

浅野祐介、石田節子、市川哲也、加藤龍一、要久美子、木村武、関口陽一、平田英二、  
深野一民、福澤節三、蒔田實、松島修三、柳洋子、渡邊義雄

**1. 本日の進め方・最終報告に向けた検討の進め方について**

ーコーディネーターの原田氏より、本日のプログラムについての説明を行った。

**2. 中間報告に対する意見について**

ーコーディネーターの原田氏より、中間報告会后に他の分科会委員から当分科会あてに寄せられた意見、本日欠席された委員から寄せられた意見について紹介を行った。

**3. ワークショップ**

**(1) 中間報告書の内容について確認**

ー他の分科会からの意見等をふまえて、中間報告書の内容について全体討議を行った。

**■委員**

- ・議事概要の4ページで、電線の地中化についてのご発言があった。また、道路が整備されると地域が分断化されてコミュニティが崩壊するという意見もあった。
- ・しかし、こうした取り組みによって良い方向に向かってよかったという面もあるのではないか。
- ・コミュニティバスについても同様だが、デメリットについてのみ着目した内容については対応が難しい。

**■委員**

- ・同意見である。
- ・同じことについては良い面、悪い面の両方がある。片方だけを取り上げるのではなく、デメリットについてもどのように対応していくかについての検討が必要だろう。
- ・我々だけで区民の意見としていいのかという疑問もある。メリット・デメリットについて、我々だけでは気が付かない点があるかもしれないという発想を持ちながら議論しないといけないし、様々な意見を捉えることが重要である。

#### ■原田コーディネーター

- ・背景としてのデメリットについて触れるかが重要である。

#### ■委員

- ・電柱についてであれば、安全の確保のために電柱が必要というのはあまりに貧困であるという回答を、中間報告会の場で行ったと思う。
- ・電柱があることで安全を確保しないといけないということは、生活道路と幹線道路の峻別が行われていないことによるだろう。
- ・安全確保のために電柱を残せということではなく、むしろ電線の地中化を進めるとともに、生活道路のあり方についてのテーマを検討することとすれば良いのではないか。

#### ■委員

- ・今の議論については方向性として反論はない。
- ・この分科会で道路を取り上げるべきかどうかわからなかったのも、議論が広がらなかったのだと思う。この分科会で道路について重要であり議論すべきという指摘であると考えれば、もう少し議論する必要もあるだろう。
- ・川越街道に関する指摘もあったが、必ずしもこれは望ましい姿ではない。また、環状七号線や環状八号線をどのように結ぶかについて、都や国にどのように働きかけていくか、コミュニティバスについても、採算性と絡みの中で税金投入と充実のバランスを議論しないといけない。

#### ■委員

- ・我々が議論した課題が全てかどうか難しい。たまたま知っているから問題にするのでは不十分で、区がどのような問題点を把握しているかについての説明がなければ、網羅することは難しいと思う。

#### ■委員

- ・区の将来像をつくるのが目的であるので、個別の問題に立ち寄る必要はないだろう。
- ・区の交通のあり方全体をどのように考えるかを示すことが求められている。例えば、誰もが移動しやすいとしたときに、区外と区内、区内同士、狭い地域などの範囲で考えていかなければいけないと思う。
- ・そうすると、生活道路という視点を入れないといけないと思う。

#### ■原田コーディネーター

- ・今は入っていないので、検討をふまえて生活道路という観点を盛り込むことはあり得るだろう。
- ・コミュニティバスについても細かい運行間隔を指定することは難しい。

#### ■委員

- ・今の報告書は細かい断片的なことが書かれているが、向かうべき方向性をはっきりさせ

ていないと思う。

- ・大きな方向性が決まっていれば細かいところをどうするかは決まっていくので、大きな方向性についてはっきり明らかにするようになる必要があるのではないか。

#### ■委員

- ・温暖化対策の前進という指摘があるが、こういった視点をどの程度将来像の中で打ち出すかについてのコンセンサスをとる必要がある。そうすると、交通の整備といっても温暖化対策ということが重視されるのであれば、車のための広い道を整備するということは優先度が下がるだろう。

#### ■委員

- ・温暖化対策は取り上げ方によってはいずれの将来像にも関係する。ヒートアイランド対策などについても対象とすると、屋上緑化などもある。無理に取り上げると矮小化してしまう。
- ・全体的に考えるべき内容であり、総論として入ってくる内容だろう。

#### ■委員

- ・太陽光発電とか風力発電などの自然エネルギーでの発電を進めていくことを目指してはどうかというご指摘かと理解した。

#### ■委員

- ・ただ、地球温暖化とすると、緑の対策なども含まれるのではないか。

#### ■委員

- ・まちづくりとして関与するとしたら、環境への配慮は今後の方向性として重要ではないだろうか。

#### ■委員

- ・地球温暖化ということは、今後の持続可能な社会を進める上では、二酸化炭素の削減ということだけではなく、まちづくり全体を考える上での重要な視点として入れる必要がある。

#### ■委員

- ・中間報告会の後に提出した意見シートの中で、全体で大切にしたいこと、として意見提示した趣旨は、いまご指摘の内容に近いと思う。
- ・全体で統一するイメージが1つはないといけないのではないかという気持ちもある。練馬区はこうだ、ということをも1つ打ち出した方が、全体がわかりやすいのではないか。

#### ■原田コーディネーター

- ・そうすると各分科会に対して意見を投げかけていかないといけない。

■委員

- ・今のご指摘のように、練馬区としての考え方を一本通さないと、判断する上で困難を伴う。

■委員

- ・環境・まちづくりは非常に幅広く、結果的にいろんな意見が他の分野の分科会からも寄せられたのだろう。
- ・環境・まちづくりということをベースにしながら、練馬区をどうするかを1つ描き、それを投げかけていくという方がやりやすいのではないかと思う。

■事務局

- ・将来像については、今の進め方だと全体で合意するという事は難しいので、分科会ごとの内容を積み上げることを想定している。
- ・どの分科会からも共通する事項として指摘されれば、共通のテーマや考え方として盛り込むことは問題はないが、当初のスケジュール想定でも現実的には難しいだろうと考えている。

■原田コーディネーター

- ・全体的な柱をどうしようかということをご議論し出すとまとまらなくなる。まずは、全体に投げかけていかざるを得ないだろう。

■委員

- ・1つの意見にまとめることは難しい。その中で、練馬区では産業を発展させるということではなく、誰もが住みやすく環境を良くしていきたいという意見が多くなったのだと思う。
- ・健康都市という概念をWHOが出しており、いくつかの都市で健康福祉宣言を提案している。関東だと市川市が宣言しており、学会の大会も行われるようである。そうしたことは練馬は今まであったのだろうか？

■事務局

- ・平成13年10月に健康都市練馬区宣言を宣言しており、健康づくりに関する取り組みを進めているところである。

■原田コーディネーター

- ・今のご意見は、この分科会として何か1つあった方がよいのではないかという指摘だと思う。委員の先ほどのご発言もこうした趣旨だろう。

■委員

- ・温暖化や環境に関するテーマは、広範囲にわたるという指摘はその通りである。しかし、

それをいかに実現するかについては、ごみを出さないといった生活上の問題は、環境教育の問題、ごみの焼却場の問題など多様な分科会につながっている。

- ・分科会として取り上げるべきことがないということはないと思う。

#### ■原田コーディネーター

- ・4つの将来像ごとに、温暖化や環境に関するテーマについて入れるかどうかについて、次のグループワークで議論していくべきか。

#### ■委員

- ・災害時の問題について、30年というサイクルで考えた場合大規模地震が発生しないということは言い切れない。こうしたことを考えるのが基本構想ではないか。
- ・ちょっとした火事があっただけでも消防車が動けない状況であるので、大規模地震が発生した際には消防能力は破綻するだろう。そういう観点では、細街路が残っているまちというのはもう少し議論した方がよいのではないか。
- ・耐震化の公共工事が遅れているという指摘が新聞であったが、練馬区として今後施策を進めるつもりがあるのかどうか。本来であれば、進めるべきだろう。

#### ■原田コーディネーター

- ・4本の柱を今からかえるということはやや難しいと思うが、将来像4について表現や内容などについてご検討頂いたほうが良いというご指摘であった。
- ・「誰もが移動しやすい」となっているが、内容も移動だけではなく表現を変えていくことはよいと思う。

#### ■委員

- ・課題をもう一つ増やして災害を強いまちづくりというのを掲げた方がよいかという気もするが、今までのものと少し位相が異なる。
- ・そうであれば、緑・農地の中で、緑地が災害時の避難拠点にもなるから整備しないといけないといったことや、交通のところで、災害時に強いまちづくりといったことを柱として立てて盛り込むということも可能ではないか。

#### ■委員

- ・防災は地球温暖化ほどではないかもしれないが、我々の生活に関わる大きなテーマである。環境や安全ということだけを取り上げるといよりは、方向性としては今の平田委員ご指摘に賛同である。
- ・分科会のテーマとして、区民生活分野がメインテーマかと思ったが、その中で我々の中で考えられる範囲で、視点を増やしていくようなことで対応していくのがよいのではないだろうか。
- ・環境まちづくりのなかで災害を取り上げるかどうかは1つの問題である。

#### ■委員

- ・環境まちづくりは今までは現状の課題から積み上げていたが、何かあったときのことも考えないといけないと思う。そういう意味では災害について全ての内容で項目をふまえていくことが望ましい。

#### ■委員

- ・区民生活分野の中で安全・安心があり、その中でまず大事にして頂くことが重要である。
- ・その上で、我々でも取り上げなくて良い課題ではないので、災害時に備えて細街路が整備されているといった表現などを変えながら、今のようなご視点を追加した方がよい。
- ・大きな柱としては区民生活のテーマに該当すると感じる。

#### ■原田コーディネーター

- ・区民生活は全体的にソフト的な内容でまとまっていると思う。皆さんの言葉で区民活動分野に対して提言して頂ければと思う。

#### ■事務局

- ・中間報告はあくまでもそこまで議論したものをまとめたものであり、確定したものではないと思っている。その後の議論の結果に応じて、適宜修正されてしかるべきものであると認識している。

### (2) 具体的事業のアイデアの検討

- ー4つの将来像に別れて、具体的事業のアイデアの検討を行った。また、あわせて(1)で指摘のあった環境や防災に関する視点の盛り込み方についての検討を行った。

#### 【討議結果要旨】詳細は別紙参照

(「練馬区の将来像を考える区民懇談会～環境まちづくり分野 第6回討議結果」)

#### ■グループ参加者(敬称略、50音順)

グループA: 石田節子、平田英二、福澤節三、柳洋子、渡邊義雄

グループB: 加藤龍一、木村武、深野一民、蒔田寛

グループC: 市川哲也、要久美子、

グループD: 浅野祐介、関口陽一、松島修三

以上